

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒業  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

上越 巻機山 - お花畑が魅了 -



たおやかな本峰稜線(左が割引岳、正面が巻機山本峰)

8月上旬、上越国境の山・巻機山(マキハヤマ) (1967m)に出かけた。深田久弥氏が日本百名山に挙げたこの山は、草原や池塘の広がるたおやかな山頂付近の風情が、その女性的な山名にぴったりの山である。

夜半に登山口の桜坂駐車場に車を入れ、明け方まで仮眠をとる。

出発は4時半。井戸尾根コースをたどる。雑木がトンネルのように覆う暗い道をヘッドランプを点けて登る。岩を乗り越え乗り越えの急登が続き5時45分、五合目の尾根筋に出た。右下に米子沢が深く切れ込み、滝が連なって見える。後は傾斜も緩くなり6時40分、六合目展望台に到着。左に天狗岩の岩峰が大きく迫って見えた。

更に30分も登ると台地状の草原が開け、七合目の物見平。更に針葉樹林帯を急登して8時30分、前巻機山頂に到着した。展望の良い山頂はよく巻機山本峰と間違えられることから、ニセ巻機の有難

前巻機



くない別名があるとか。目の下には赤い屋根の避難小屋、池塘の点在する草原を隔てて、雪溪の残る巻機山本峰の緑の斜面が美しい。避難小屋の前を通過して本峰に至る木道の左右には、ニッコウキスゲ、ワタスゲ、ミヤマリンドウなどが、今を盛りと咲いて見える。

9時10分、巻機山と割引岳の鞍部の御機屋に到着。ここに「巻機山頂」の大きな標識が麗々しく立っているのにビックリ。これ以上登りたくない人へのサービスのつもりだろうが、何とも紛らわし



御機屋

い。ここにザックをデポして巻機山と割引岳をそれぞれ往復した。巻機山本峰は何の変哲もない草原の高まりで、どこが山頂かも判然としない。往復40分。戻って更に、割引岳の往復は50分を要したが、この割引岳山頂付近を彩るお花畑は素晴らしかった。ハクサンコザクラ、イワイチョウ、コイワカガミ、ミヤマリンドウ、カラマツソウなどが一面に咲き誇る夢の世界だった。



ハクサンコザクラ



イワイチョウ



コイワカガミ

花を堪能した後は避難小屋まで下り、小屋前のベンチで景色を楽しみながらゆっくりの昼食休憩。帰りも同じ経路を下り、駐車場帰着が午後2時だった。